

## 第16回（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

### 議事要録

日 時	平成 21 年 6 月 9 日（火）18：30～21：45
場 所	クリーンセンター 3 階 見学者ホール
出 席	寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橘弘之委員、金子和雄委員、佐々木保英委員、村井寿夫委員、前川智之委員、井上良一委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）、傍聴者 10 名、記者 3 名

委員長 : 今日では以前の部長など懐かしい顔ぶれが見えられている。先週山梨県のスーパーやまとに見学に行ったが、各委員どういった印象を持たれたか。生ごみの再利用施策に活かしていけるのではないかと思っている。収集運搬の費用がかかることが問題になるが、市民が持ち込むあの様な形は非常にいい仕組みだと思う。生ごみはそう簡単には諦めないで出来る方法を見つけていくことが必要。

#### 1. コミセン勉強会（本宿コミセン）、「クリーンむさしのを推進する会」地域集会、「スーパーやまと」視察について

事務局より実施状況の説明。

委員 : 6月5日に本宿コミセンで勉強会を行った。前々から盛んにPRしてきたが、参加者は残念ながら12名。雨天ということもあった。始まってみると非常に活発な意見が出され、これまでの中では一番いい雰囲気の前向きな議論がなされた。一番市の外れであるが、あれだけ関心を持っていただけたのは良かった。色々声かけをしたがなかなか集まっていただけなかったのに対し、「クリーンむさしのを推進する会」の地域集会は参加者も多く良かった。

委員 : 本宿コミセンの勉強会には、桜堤からも来られていた。クリーンむさしのも言われたが、若い人が入ってこなければ。必ずしも若い人に関心がないわけではなく、大学関係など話をかければ興味を持っている人もいる。話の仕方によっては関心を持ってもらえるのではないかと。

委員 : スーパーやまとの生ごみ堆肥化の取り組みについて、社長の信念として、自分のところのごみでないものも想定してやられている。防犯カメラ等つかないかと質問したが、カードで登録しており、信頼関係もあるのでつかない

- とのこと。地元に着したもののほど継続する。是非武蔵野でも出来るといい。
- 委員 : 社長はやり手。やり方として行政の補助等お金はもらっていないので市の言うことを聞かなくていい。700万円くらい設備に費用がかかっているが、なぜ自前で出来るかという、ごみを持ってくるときに買い物をするので売上につながる。それを武蔵野で出来るかというどうか分からないが、率先してやろうという気がなければできない。行政がやってくれという場合、「では補助金を」という話になる。
- 委員 : 本宿コミセンの勉強会で、市長がいい施設なのでクリーンセンターを見学して欲しいと1月1日市報に載せていると言われたが、それは小諸市の市長。小諸市は何度もクリーンセンターに視察に来ている。各学校で落ち葉の堆肥化をやっているところがあるが、その管理を「クリーンむさしを推進する会」でやられている。若い人に参加してもらう方法が非常に難しいが、共通して出てくるこれからの課題。地域集会にも参加したが、周辺の苦勞話をしてくれということにさせていただいた。最終的には市民一人ひとりが関心を持ってごみ減量の努力をしてもらうのが一番の感謝の形。境南でも、所長の方からも委員会での検討内容など語っていただいた。「クリーンむさしを推進する会」の前身である団体の会長が境南町の出身で、当時から境南町の方は関心が高く活発な意見が出た。
- 委員長 : 積み重ねのもとで信頼関係が生まれる。やれるのにやらないで失敗することはあっても、やって失敗ということはあまりない、というくらいの気持ちで。やれることをやらない方が問題。生ごみの有効利用ということで、肥料だけでなく飼料として使える。養殖の魚のえさに出来る。それらのことから考えるといずれにしても勉強になった。
- 委員 : スーパーやまとで感心したのが、レジ袋をどこのものでも持ってくれば1円で引き取るというシステム。レジ袋を売るときは2円で売るがマイバッグを持ってくれば5円の還元。ずいぶん思い切ったことをされている。トイレを借りたら何か買って出るとかそういう考えがあるが、同様。普通であれば燃やしてしまうところを買うというのは面白い。
- 委員長 : 1週間前、済州島に行っていたが、そこでは生ごみの資源化をやっていた。済州島大学の教授で私の教え子が考えて、生ごみをほとんど再利用している。肥料であれば何日か寝かして二次発酵までやって市民に配っている。資料の訳が出来次第配っていただきたい。韓国はトップダウン型の政策決定で、国や県が市町村にやれというからやる。それから外国人の力が働いている。施策の決め方には問題があるが、やらないよりやる方がいい。
- 委員 : 地域集会に一度しか出なかったもので、他の集会の話をしてもらえれば。けやきコミセンでは、ごみ減量に本気で取り組んでいるのかと話があり、元々焼

却だけを扱う場であったが入口から出口までということで広げて検討したということ、ある程度理解いただいた。他所では特にクリーンセンターについてどういう反応があったか。

委員 : 吉祥寺北コミセンでは、クリーンセンターの説明は聞いているのみであり、質問としては処分場がどれくらい持つのかというものだけであった。そこで、地元の委員として意見を話した。地元の感情としては、伊勢神宮のように場所をかえるであるとか分散するであるとか、どこかに行ってほしいと思っていることを伝えた。周辺住民は、何も思っていない訳ではないということをお伝えすると、「税金が安いのでは?」「お湯をもらっているのでは?」と聞かれたので、そういう事実は無いということをお伝えした。地元の人が苦悩していることは理解されていないようであった。

委員 : 地域集会というのは「クリーンむさしのを推進する会」の今までの報告と今年度の計画を主体でやっており、クリーンセンターのことについては、時間的には30分ほどしかもらえなかった。基本的にはいつも無関心といわれる人たちに今の状況を分かってもらえればと思っていたが、あまり質問は出なかった。ただ聞いていただいたことが収穫ではないかと思っている。

委員 : 都営住宅の集会所のときは集会所一杯で、クリーンセンターに近いということで関心をお持ちだった。周辺3団体は健康診断があるののうちはないのは不公平という話があった。周辺は協定の中で保障があるが、運営協議会等をやってきており、そういった努力とか責任も果たす必要がある。その中ではこの場所に落ち着くだろうという方が多く、バスを使いやすくなどの要望もあるようだったが、現段階で決まっておらず、決まってから要望を出してという話をした。「クリーンむさしのを推進する会」はごみ減量など関心のある人で協力されている人が多いので、どこの土地に出来ても自分たちが何をすべきか心得ているような雰囲気だった。それよりも今後課題の一つとして無関心な人たちをどうするか。周辺住民の負担の気持ちを共有してもらうにはどうしたらいいか。この二つが課題と感じた。

委員 : 「クリーンむさしのを推進する会」に入っておられる方は900人くらいいるが、地域集会では会員じゃない人も結構おられた。そういう点では多少プラスにPRが出来たように感じる。

委員 : 中央コミセンと関前コミセンに出たが、非常に大勢出られて予想と違った。熱心に聴いてもらったが、質問は全く出なかったので内容に対しての反応は分からない。ごみに関しては、分別とか収集、生ごみについても非常に関心を持たれていた。大勢の方に話を聞いてもらったので、これをきっかけに続けていければいい。

委員 : 私は主にコミセン関係の会合に携わったが、これと地域集会の違いがはっきり

りあった。コミセンの場合は組織があるわけではなく、クリーンセンターの建て替えについて勉強しようということで集まっており、場合によっては非常に過激な話が出たり全く無関心だったりと極端なことが多かった。地域集会は母体があって人集めしており、全く違う人が集まっていると思った。今日ごみ減量協議会の人に来て、ごみ総合対策課の関係でああった組織もある。今後第二次第三次とやっていると縦割りの組織ではまずい。横断的に地域的な集まりをすれば、もっとたくさんの人を集められる。「クリーンむさしのを推進する会」もごみだし、ごみ減量協議会もごみ。ただし協議会は非常に狭い範囲の特化したことをやっており、「クリーンむさしのを推進する会」は幅広く、コミセンはごみということではやっていない。コミセンの場所や組織力を使うのはいいが、ごみの問題をやる時には組織を洗い出し、横の連絡をとりながらやっていくと地域としてのまとまりが出てくるのでは。

- 委員長 : 東京に区が置かれたのは昭和 18 年。それ以前は東京市であって昭和 16 年あたりの市報を見ていくと、ごみの問題がたくさん出てくる。し尿は減らせないがごみは減らせる。リサイクルなどは時代によって違ってくる。その時でもお願いするようになっており、なかなか市民に強制できない。戦争前は燃えるごみは台所ごみや木竹。雨が降るとびしゃびしゃになり助燃材が多量に必要で黒煙を出して燃やしていた。生ごみは水を燃やしているようなもの。
- 事務局 : スーパーやまとの資料をご説明したいのと村井委員からのご提案を説明いただきたい。

事務局より資料「スーパーやまと視察」の説明。

その後、委員より資料「スーパーやまとの見学から探る武蔵野市の可能性」の説明。

- 委員 : 緑化の専門家として肥料化や飼料化、草木灰について宿題をもらっていた。それから、委員会直前に視察したものを生かすためにまとめた。
- 委員 : 横浜のブランド有機肥料は、原料はチップであり生ごみではない。生ごみの場合は新規なので、パイロットとして進めていくのがよろしいのではないか。
- 委員長 : 目黒の生ごみは駒沢公園に無断でジャガイモを作っている。区は認めてくれなかったが、いいことなので、法律上は出来ないが知らなかったことにするとしてくれた。団地やマンションを建てる時には 6 % 程度の空間を提供する必要がある。そこを家庭菜園のスペースにすればいい。
- 副委員長 : せっかくこういう話が出たので、場合によって資料編に入れるといいのでは。
- 委員 : 以前から少ない農地を守ろうということでやってきて、今日午前中に農園にうかがってお話を聞いてきた。果樹を作るにあたり枝の剪定であるとか落ち

葉であるとかを農園の中で有効に使う努力をされていた。剪定枝を炭にして肥料にしている。落ちた葉や果実も積んで発酵させている。パイロット事業をやっていくにあたって、こういったところとの連携はあるなと思った。ただ農家は農政係というところがやっていて、ごみ総合対策課とほとんど繋がっていない。JAとも繋がっていない。そのため市民にPRしたいがなかなかネットワークがない。役所の中の横のつながりを考えるべき。金子委員もいらっしゃるので、客にも世間にもお店にもいい、三方よしのスーパーやまとの取り組みを市のどこかでやっていただけるといい。

委員 : ごみ減量は協議会がある。我々も縦割りになっており、クリーンセンターの建て替えをやる委員会であり、時間も限られている。3千ほどの商店があり、商店会連合会がここにやれということは出来ない。商店は吉祥寺地区に非常に密集しており、これだけのスペースがあるのか。井の頭も騒音・悪臭等苦情が多く厳しい。これからの事業者は環境問題が切り離せないから、それは常日頃言っている。レジ袋は別の委員会でやられており、商店街でテストケースをやろうとしている。

## 2. 最終報告書(案)について

事務局より「 . 当委員会における基本方針」「 . ごみ問題と対策の長期的展望」「 . 新施設建て替えへの背景と必要性」の説明。

副委員長 : 、 、 のところで何かあるか。

委員 : 3ページの(2) 運営協議会のところで専門家の派遣とあるが、誰が派遣するのか。必要であれば協議会が要請するのではないのか。市が派遣すると、住民側の立場で協議に加わってもらえるかどうか不安。

副委員長 : 専門家を加えるということではないか。

委員 : 階段を使って生ごみを使うというような取り組みをされているところがあるのか。デンマークでは階段で木を育てている。

副委員長 : 都市の共有空間の中で。

委員 : サンヴァリエ桜堤で、生ごみ処理機を実際に20台近く置いてやっているの、仕組みとか市でやっている例として。ごみのコミュニティになっているか分からないが資料編に入れておいては。

副委員長 : 集合住宅の空間作りというのは難しい面がある。その具体例として。集合住宅の空間、都市の中の空間をどう使うかを入れていただいてもいいのでは。

事務局 : サンヴァリエについては資料編に簡単に記載しているが、ざっと書いてあるのでもう少し補足する。

副委員長 : 追加すべきところがあれば委員長からも資料をいただいて追加して欲しい。

事務局より「 . 新施設の在り方と求められる条件」「 . 整備用地の候補と適合性の比較」の説明。

委員長 : クリーンセンターの屋上利用について、緑化も考えられるが、農地利用も出来るのでは。

委員 : 屋上緑化は可能性が色々ある。施設の在り方の中に屋上の可能性をもう少し広げて、市民が入れる施設としての利用が屋上に展開されるというのもある。

委員 : 屋上緑化について、都は一生懸命やっているが、武蔵野市は平面緑地がたくさんある。屋上を緑化すると建物に負担がかかるので、屋上緑化より太陽光発電をやるべき。

委員 : 15 ページに委員の提案が入っているが、バイオマスがいつの間にか堆肥化に限定されてしまう。場所も境公園に限定されてしまっている。バイオマス処理と生ごみ処理が混じっているが、これはバイオマスとしておいてはどうか。14 ページの図は境公園に限定すべきでない。吉祥寺であればビルの中につくるなど、他にも候補が考えられることを記述する。

委員 : 屋上緑化とか壁面緑化を言うのは、植物の感知で、これが枯れなければ安心という意味もある。視覚的な面から不安を取り除けるというのもある。

副委員長 : 両方入れればいいのではないか。

委員 : もう一つ加えると、緑化により壁面などを隠すのではなく、つまり常緑の恒久的なもの(本木)ではなく、単年の人が関わらなければいけないもの(一年性草木)にすれば、屋上の土壌も薄くて済む。

委員 : ヒートアイランドを押さえる面では広い視野に立って検討していく。

委員 : 展示会に行くときだいたい薄いやつもある。屋上は必ずしも平らとは限らないため、平らじゃないところに太陽光をするなど、両方できるのでは。

委員長 : 一番分別収集でやっているのは山形県の長井市で、袋を使っていない。弁当箱に入れて持っていく。先進都市とか農家の話を聞いてやっていくといい。

委員 : 運営協議会の中でも、1~2度周辺住民から専門家の話を聞きたいと行政にお願いして派遣していただいた事がある。きちっと規定した上で派遣をしていただきたい。

委員 : 工場側と話す時に、データを見ても対等に話せない。その解らないことを聞けるアドバイザーが必要ではということかと思う。

委員 : 前から話に出ていたが、運営協議会の3団体だけでなく他の市民や専門家にも入ってもらって話を進めていたが、何処かへ行ってしまった。そういう書き方をすればいいのでは。

副委員長 : 公平な立場からアドバイザーとして専門家を加えていく。市民と行政の間にもすごい非対等性がある。それをどう克服していかなければいけないか。

両方の問題でもあり、協働して取組まないと絶対に埋まらない。

委員 : 住民の立場に立つ専門家として、委員会側からこういう方がいいと自ら選んだ上で入っていただくのがいい。

委員 : 今までも、大体市民委員会の際は住民側からの推薦の専門家という形で選ばれていた。

委員長 : 長井市は農家の方からごみを持っていく形にした。肥料を上手く使ってもらえるような人をキャッチしてやれば。

副委員長 : 課題に適切な公平なアドバイザー。それと運営協議会を、出来るだけ全市に開かれたものにしていく。どういう形になるかわからないが、基本的な姿勢はそれをお願いしたい。環境緑化については、12ページの「5. 地球環境・周辺環境への配慮」の中に入れていただいて、建物そのものあるいは周辺関連への予防効果ではないが、壁面や屋上等周辺整備に使っていく等入れる。

委員 : 12ページで地球温暖化対策について書いてあるが、CO<sub>2</sub>削減のためのパッカー車の電気自動車を採用する。新施設では発電するので振動をエネルギーに変換する等、壁面緑化や屋上発電等付け加えたらCO<sub>2</sub>削減のためになるのでは。

副委員長 : どう表現をすればいいか。環境の問題、周辺効果の使い方は今のよう形でもまとめてよろしいか。我々が考えている事を積極的に出していくべきだと思う。の整備用地について、「3. 『将来可能性のある都市計画施設』を抽出する」のところは、正面から読んだ場合に農地はなかなか作りにくい。3の意味は非焼却からバイオマス処理の仕方がこれから大切という前提があり、その中で分散化もありうるという事があって、問題になった場所をそれに該当させる流れで考えてきたのでこういうまとめになった。ところがこれだけ読むと、この場所だけでなくもいいという矛盾がある。こういう場所が違う意味でありうるという提案は大切な事で、その辺りをどう考えるのか。整備用地の要件整理は我々のスタンスでいろいろな事を検討してきた。この厳しい条件の中から最終的には行政が判断する事。読む側はどう取るかの話も含めて意見を伺いたい。

委員 : 14ページ、3の境については農業に関連した施策に適しているということで、メタンガス化の方法もあるので、ここに限られるわけではない。

委員 : 境公園を図からとればいい。

委員 : 焼却とは別に、バイオの候補地として境公園が出てくるという流れ。

副委員長 : それであれば焼却施設の整備用地だけでなく、ごみ処理の整備用地が対比で出てきてこういう形もありうるという示す。この章でいう整備用地は焼却施設を前提としているので、焼却施設の選定が2番に書いている。2つの話の整理が必要。

委員 : 分散した時に焼却も小さくなり、そのスペースがあるかは検討していない。

- 委員 : 24 年前は全て焼却だった。それが新たなものが出来るようになってきた。焼却を出来るだけ小さくしていくことで負担を減らしていく。分散していく。その一つの例として挙げられるのがこれということでもいいのでは。
- 副委員長 : そうなると 3 は将来の可能性のある都市計画施設という言い方ではなく、分散移行型の可能性と設備の選択みたいな言い方をしないと、両方が繋がらなくなる。そうなると例として境公園がありうるとなる。
- 委員 : このままだと境公園に決まったように見える。他にもあるかもしれない。
- 委員 : ある程度予測をつけて見込みがあったのでこういう案が出た。
- 副委員長 : スペースは階段でもいいのであって、ある程度大規模なものをやるにはこういうところがある。
- 委員 : 3 炉が 2 炉になって、今後もいろいろ分散が考えられる。
- 副委員長 : ここで書きたいのは現在場所がどこにあるか、2 番目には将来的な施設のあり方を含めて何処に用地があるのか。3 番目は委員が出した境公園のような例を出す。イメージが出来る。前の話をつなげて誤解されないようにしなければいけない。
- 委員長 : 境公園については市民の方はほとんど知らない。
- 委員 : 住んでいる人も知らないと思う。これを見て自分たちが住んでいる場所だと思った時に、感覚としてどうなのか。具体的に境公園と書いてあれば何処だろうとまず思う。将来計画として可能性があるところはこういうところもあるぐらいでないと、なかなか難しい。
- 委員 : 資料にもあるし議事録にも出てきている。非常に広い範囲なのでどこかは解らない。それくらいしか市が自由度を持ってできる場所はないのだからまちづくりを考えてみませんかということ。
- 委員長 : 我々は議論しているからいいが、市民にしてみると突然出てくる。
- 委員 : バイオマス施設・堆肥化施設以外にも、メタンガス化施設を吉祥寺辺りの空き地や街中でもつくれそうな可能性がある。具体的な場所を候補地にするのはすぐには出来ないの、候補地が幾つもあるような表現にしてはどうか。
- 副委員長 : 章は焼却施設の整備用地という話になる。整備用地の考え方を示しておいた方が、整備用地とは何の事を言っているのかという事になる。
- 委員 : 聞かれたら堆肥化施設としてこれだけのスペースがあると出す。ここまで検討したと出せばいい。
- 副委員長 : 1 と 2 は焼却場で、3 は同じ流れではなくタイトルも変える。委員の提案も、もっと抽象的な言い方にする。
- 委員 : 整備用地と言うと今のクリーンセンターを想像してしまう。整備用地イコール焼却施設という図式が固定観念としてあるので、それを少し緩めるために中間処理施設としては焼却ばかりではないとしっかり書く。

- 委員 : ここには農業ふれあい公園と入っている。それで境公園と入れているから。
- 委員 : 具体例があったらそうなるが境公園を出せないのであれば、将来の中での話なので、今現実に出来ないのは目に見えている。境公園の位置付けは都市計画公園として動いていないものなので、やろうと思ったら出来る。小学校の統廃合で生まれている土地も将来の対象にはなる。市が持っている公共施設の建て替えが必要になってくるところが、今は財政上無理でも建て替えの時に選択肢の中に入れるという3つぐらいにすれば、将来都市計画の中で逃さず考えていくべきだというスタンスを書くべき。
- 副委員長 : 将来は堆肥とか基本が変わってくるのでそういうところも対象になってくる。
- 委員 : バイオマスで生ごみを堆肥にするしかないような話だが、処理方法も炭化やメタン化等いろいろ出てくる。もっと小さい設備で出来る可能性があるので、将来にわたっては生ごみを減らすには燃やすだけではなく、出来る場所でこの3つを進めていくと入れてはどうか。
- 委員 : 固定観念で堆肥だと思うが、バイオマスは他にもたくさんある。資料編に入れている。
- 委員 : これは将来構想で2番まででいいと思う。補足として将来はこういった配置を目指したらいいと案が入ってくる。外すか簡略化したものを資料編に回す。
- 委員 : プラントではなく出来る取り組みがパイロット事業だと思う。
- 委員 : 多量にやろうと思うとメタン化でも堆肥化でも設備が必要になる。
- 委員 : 焼却施設の分散化に対して将来的にも市はもっと取組むべき。名前を載せる事によりやらざるをえない状況を作り出すために名前を入れておく。将来計画を具体的なものにしないとまた埋もれる。
- 委員 : 堆肥化の場合は、農業ふれあい公園になる。ガス化の場合はプロパンガスの大きなタンクに供給出来るようなシステムがつけられる場所になる。農地でなくビルの中で出来る設備という目で見たら候補地も他に挙がってくる。そういう広い目で書こうとすると境だけが候補地であるように書くのはどうかと思う。
- 委員 : この委員会でやってきた議論は、PRも含めて意識的にごみとの関わりで減量をしていく1つの旗頭として、このパイロット事業をやる。
- 委員 : 本格的に境公園にしようとして検討したわけではなく、ここの対応でどこがあるかと言った時に出てきた。公園的な整備でプラスともとれる施設だとすれば、何か出来るのではないかと、それなら堆肥化プラントの小さなものをつくって、農業に関するものをやってみようとの話が出てきた。パイロットプラントで出来れば、また違う形で大きなタンクを作るとかいくらでもある。だからこのままでもいいような気がする。
- 委員 : 議論したものは残しておくべき。これを受けて市長がどうするか。

- 副委員長 : 表に出すレポートなので、焼却場の話からどう繋がっていくのかを明確にしておかなければいけない。タイトルであれば「将来における処理施設のあり方と用地の選択」みたいな言い方で、ここに来る次元を変えてここではこういう形で選んだと。ここで将来像を書くのは本来おかしいが、肝心な事はここに選ばれた時、負荷を軽減していく方法を探っていると云わなければいけない。その上で、処理施設のあり方が変わっていくという事と用地の問題をきちんと対応させて、現実選ばれた場所の負荷が少なくなっていく事を示唆しなければならない。タイトルを変えて整理すれば決して書けない事はない。境公園は1つの例として挙げてもいいし、その場合、それイコールと見えないようにしなければいけない。処理施設が変わっていく可能性があり、それに対して用地を提案していると言うべきだと思う。
- 委員長 : 委員会としてどこまで期待されているのか。
- 副委員長 : 結論を出すべきところではないが一番期待されているところ。固有名詞は書かずに、「将来における施設のあり方と用地の選定」など。
- 委員 : その中で出て来た課題はこうで、それを検討したと。
- 副委員長 : 我々の真意を出すべき。整備用地とはどういう事を言っているのか。将来の展開と可能性がある話を最初にして焼却施設の用地の選定を持ってくるのか、1と2をそのままにして3に可能性を考えるとするのか。
- 委員 : 主題の結論ではなく、途中の経過がここに入る扱い。
- 副委員長 : 2に入ってもいい話。将来的な課題は長期展望に入ってもいいが、用地を考えていく場合には用地の中で議論したほうがいい気がする。ただ名前は取って3つのカテゴリーでその候補地としてありうると、真意としてはこれからの焼却施設の負荷は今よりも小さくなると示す。全市民が担うと言いたい。将来の処理施設の変容とかあり方はどんなに議論してもいろいろな問題がある。将来の処理施設のあり方と用地の意味。
- 委員 : 15 ページ「武蔵野市で考えられるごみの堆肥化の方向性」はこのまま入れるのか。
- 副委員長 : 唐突な感じがする。
- 委員 : 商業施設の図式とセットで組み合わせは変わるが、チップをここに入ればいいのでセットで載せていいと思う。
- 副委員長 : 重要な資料として資料編に載せる。「 . 新施設周辺における地域のまちづくりの考え方」に関して何かあるか。
- 委員 : 周辺環境とまちづくりについては、用地が決まって地域で十分協議をすると書かれている。
- 委員 : 17 ページの「4 . 環境保全とまちづくり」で、まちづくりをするのはいいが出来上がってからのメンテナンスを十分して、「行政職員・運営協議会委員の

交代によって損なわれず」とあるがこれは資料編で、基本計画・施設計画にずっと伝わっていくようにしてもらえればいい。

副委員長 : 「 . 今後の進め方についての提案」はどうか。強引な進め方で申し訳ないが15回に渡って議論してきた事を踏まえ と で基本的な問題はあるか。

委員 : 「市職員に対しても十分な視察や研修等で見聞を広められるよう必要な投資を行い」はその通りだと思う。運営協議会が随分苦労した点。周辺住民のほうが多く居るので職員とのギャップがある。新しく体制が変わるとゼロから全部話さなければいけない。そこが一番周辺住民にとってストレス。そのところは何かの形で研修して、周辺住民に近づいて欲しいと思う。普通の人事をされると本当に困る。

委員 : 縦割りは役所だけではないが、クリーンむさしのを推進する会、ごみ減量協議会、運営協議会も当然連携していかなければならない。スポーツ施設や農業もあり、連携を言うならここにそれを入れたほうがいい。

委員 : 市役所内の連携をちゃんとして欲しいというのがある。

副委員長 : スケジュールの話ではP F I等の検討もあるが、こういう形で我々の側からの意見が網羅されたという事でいいか。

委員 : 資料編は一緒に出すのか。

事務局 : 皆さんの意見と今までの蓄積がかなりあるので、最善をつくして整理をしたつもりなので出来れば一緒に提出させていただきたい。

委員 : さっき付け加えた部分もまた入れていただければ。

委員 : スケジュールのところにP F I等導入可能性調査とあるが、これはこれからするのか。もう終わっているのではないか。

事務局 : これから。基本的に清掃工場の場合は1ブロック毎にやるが、P F Iの場合資金調達有り無しだが、清掃工場の場合は設計施工から運営管理まで立体的にやって後資金調達をどうするかが主流となっている。そういうものも含めて次の委員会内でその辺を。P F Iが出来るかどうかの調査とそれ以外の手法もある。今回手法までの議論には至れなかったし、今後必要になってくるのは概算費・資金調達・財政問題等も加味しなければならない。

委員 : 基本構想が出た時に周辺の団体には説明があった。私たちパークタウンの自治会としてP F Iは出来ればやめて欲しいと要望を出している。

副委員長 : あり方として可能性はなきにしもあらず。

委員 : 市にクリーンセンターは1箇所しかなく、P F Iで計画から財産管理まで運営を委託となると、安全安心という商売だから緑町としてもものすごく心配。ごみというのはいろいろな状況があるから、行政の判断の元、1本化で運営していただきたい。

副委員長 : 事業化選定条件調査みたいな捉え方をしたほうがいい。いろいろな問題があ

る。このスケジュールを入れたほうがいいのか。参考として。

委員 : 基本構想の流れがそのまま載っている。

副委員長 : 場合によっては資料編に入ってもいい。参考資料として。

委員 : 問い合わせが多いので参考資料としていれておけば流れがどうなるかわかる。まちづくりについて意見を言える場所が何処にあるのか、これをつけて置けば分かる。

副委員長 : 今日の修正は委員長・副委員長に任せさせていただく形でよろしいか。

委員長 : ご苦労様でした。長い間ありがとうございました。

事務局 : 長い間ありがとうございました。最終的には11日に委員長・副委員長他出席される委員で17時半より市長に直接答申いただいて終わる。

了 (午後9時45分)